



野生鳥獣の侵入を防ぐための設置された電気柵(大東町大原山地区)

カなどがひんぱんに出没し、田畑を踏み荒らしたり、食害を起こしたりしている。その被害額は年間3千万円強に上る。相次ぐ被害に、農家の生産意欲は低下。野生鳥獣の侵入を防ぐため、電気柵の設置などの対策を余儀なくされている地域もある。山が荒れることによつて、里山の暮らしがおびやかされている。

そこで見直されているのが、森林周辺の刈り払いや、適度な除間伐(※1)だ。野生鳥獣は用心深い。人の手が入った場所には近づかない傾向がある。荒れた山も、適切に管理されれば、恵みにあふれる。山が本来の姿を取り戻すためには、森林の整備が欠かせない。

2011年3月に発生した東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故により、山菜などの一部の品目や野生キノコに加え、狩猟したシカなどの肉も出荷が制限されている。採取しても食べたり販売したりすることができないため、人が山に入る価値や理由が減った。数が増えた野生鳥獣たちは、餌の豊富な里山に向かって生活圏を拡大している。

人々が山から遠ざかる要因は何だろう。要因は生活様式の変化、林業労働者やハンターの高齢化だけではない。

### 山を本来の姿に戻す

## CHAPTER 1

# 山を守る

Mountains are always with us.

古来から人の営みは山と共にあった。しかし、生活様式の変化、林業労働者の高齢化や原発事故が、山から人を遠ざけた。歯止めを失った野生鳥獣たちが、里山の平穏な暮らしをおびやかしている。

### 山の恵みと人の営み

一関市は、標高300m以下なのだから山々に囲まれたまち。緩やかな傾斜の中山間地が多く、山の恵みと共に暮らしている。

春は桜を楽しみ、夏は豊富な湧き水が水田を潤す。秋は紅葉を見ながら山菜やキノコなど山の幸を味わい、冬にはまきを切り出し暖を取る。山の恵みは、古くから、人の営みにとつて、かけがえのないものとなっている。

### 荒れる山と増える獣

近年、山が荒れている。人が山に入らなくなったから。人の姿が消えた山には、足の踏み場もないほどにツル植物やササが繁茂している。それらは木々の成長を妨げている。

また、山の中などに生息する野生鳥獣が容易に里山に侵入してくるようになった。クマ、カモシカ、イノシシ、ハクビシン、タヌキやニホンジ



1 栗駒山の麓、本寺地区の昔ながらの田植え風景 / 2 毎年、見事な桜を咲かせる釣山 / 3 紅葉は秋の楽しみの一つ。色づくモミジに見入る / 4 まつるベスノーランドでスキーやスノーボードなどに興じる / 5 まきストーブのやさしいぬくもり。環境への負担も少ない

### Interview

#### 千葉広幸さん

西磐猟友会所属  
ハンター



profile ちば・ひろゆき

1973年花泉町生まれ。会社員。祖父、父もハンター。野生鳥獣の被害防除にも一役買うと、33歳から狩猟を始める。両親、妻、娘2人の6人家族

#### 山を手入れし、動物の侵入阻止を

ハンターが少なくなると集落を守る人もいなくなるとい、狩猟を始めました。山や休耕田は、手入れをしないとクマやシカなどの隠れ場所が多くなります。草刈りなど、できる範囲で手入れをしてほしいと思います。

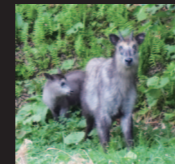
クマやシカは、本来生息する場所に戻ってほしい。私たちも必要以上の殺処分は行いたくありません。

### 里山の暮らしをおびやかす有害鳥獣

野生鳥獣の中で、地域の農林業や生態系に影響を及ぼすおそれのあるものを「有害鳥獣」と呼ぶ。これらは本来、山の中などに生息しているが、餌が不足すると里山に下りてきて農作物に被害を出す。



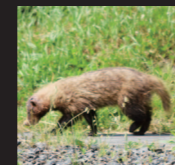
①イノシシ  
水田に侵入し、イネを食害するほか、踏み倒して被害を出す。



②カモシカ  
草食。国から天然記念物に指定されているため、捕獲が困難。



③ハクビシン  
完全な夜行性で木登りが得意。雑食で、リンゴなどの果実を好む。



④タヌキ  
夜行性で、単独またはペアで行動。雑食で、好物はウモロコシなど。

参考…「野生鳥獣被害防止マニュアル」農林水産省生産局

\*1 除間伐… 成長の遅れた木を切ることによって、残った木に日光を当て、成長を促す作業